3/30 日本海

敦賀原発 審査打ち切りも

規制委員長 原電資料不備で言及

原子力規制委員会の山中伸介委員長は二十九日の記者会見で、日本原子力発電敦賀原発2号機（敦賀市）の再稼働に向けた審査について「打ち切りも含めて、最後の決断をしないといけない時期だ」と述べた。原電は審査資料の誤記などを繰り返しており、規制委は四月に、審査の一時的な中断だけでなく、完全な打ち切りも視野に議論する。

委員長が打ち切りの可能性にまで言及するのは異例。敦賀原発の審査は、原電が審査資料を無断で八十カ所書き換えた問題で約二年間中断。再発防止策が整ったとして昨年十二月に再開したが、原電は根拠を示さずに百五十七カ所を修正した資料を提出するなど不適切な対応が続き、実質的な審査ができていない。山中氏は「おそらく本当に最後の決断になる。改めて（再発防止対応を）検査することはない。このままの状態を放っておいていいとは思っていない」と強調した。

敦賀原発を巡っては、規制委の有識者調査団が、2号機直下に将来動く可能性のある「活断層」があると指摘。それでも原電は再稼働の審査を申請した。活断層でないと証明できなければ廃炉は免れず、審査で反論を続けていた。

一方、稼働に向けた審査が停滞する日本原燃の使用済み核燃料再処理工場（青森県）についても「敦賀原発と同じように、根本的なところに原因があるなら、何らかの方策を考えないといけない時点に来ているのかもしれない」と指摘した。